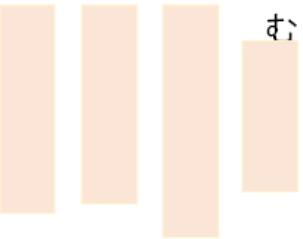


70(青札⑥) さびしさに 宿を立ち出でて ながむれば いづこもおなじ 秋の夕暮れ 良暉法師

意味: 家に一人でいると寂しいので、庵を出て、周りを眺めても心のなぐさめになるものはなく、いっそうさびしい秋の夕暮れが広がっている。

1 あきのゆふぐれ いづこもおなじ ながむれば やどをたちいでて さびしさに	2 あ い な や さ	3 あきのゆふぐれ いづこもおなじ ながむれば やどをたちいでて さびしさに 季節はいつですか？
読みます。	読みます。	季節はいつですか？ なぜそう思いましたか？
4 秋のゆふぐれ いづこもおなじ ながむれば やどをたちいでて さびしさに	5 秋のゆふぐれ いづこもおなじ ながむれば やどをたちいでて さびしさに この頃は、明るい感じがしますか？ 暗い感じがしますか？	6 秋の夕暮れ いづこ同じ ながむれば 宿を立ち出でて 寂しさに 宿を出て、さびしさはなくなったでしょうか？
秋ですね。	このうたは、明るい感じがしますか？ 暗い感じがしますか？ (暗い) (さびしいとあるから)	「さびしさに」とあるから、宿を出てみました。寂しさはなくなったのでしょうか？
7 秋の夕暮れ いづこ同じ ながむれば 宿を立ち出でて 寂しさに	8 秋の夕暮れ  「秋の夕暮れ」の出くさ、百人一首のもう一つの頃は、	9 秋の夕暮れ  む
1人で宿の中にいるとさびしいので外に出たら、まわりもさびしい秋の夕暮れだった という唄です。	ちなみに、「秋の夕暮れ」が最後に来る唄はこのころ有名で、他の歌でもよく使われていました。百人一首の中にもあります。何の唄でしょうか。	ヒントです。

10 秋の夕暮れ 霧立ちのぼる まきのはに つゆもまだひぬ むらさめの	11 心無き 身にもあはれは 知られけり 鳴立つ沢の 秋の夕暮れ さびしさは なかりけり その色としも 秋の夕暮れ 真木立つ山の 寂蓮法師 見渡せば 花もみぢも なかりけり 浦の古屋の 秋の夕暮れ 藤原定家	12 心無き 身にもあはれは 知られけり 鳴立つ沢の 秋の夕暮れ さびしさは なかりけり その色としも 秋の夕暮れ 真木立つ山の 寂蓮法師 見渡せば 花もみぢも なかりけり 浦の古屋の 秋の夕暮れ 藤原定家
むらさめの のうたがそうです。	他にもあります。よんでみましょう。	3つともに「秋の夕暮れ」で締めくくられています
13 心無き 身にもあはれは 知られけり 鳴立つ沢の 秋の夕暮れ さびしさは なかりけり その色としも 秋の夕暮れ 真木立つ山の 寂蓮法師 見渡せば 花もみぢも なかりけり 浦の古屋の 秋の夕暮れ 藤原定家 さんせき 三夕の唄	14	15
3つともに「秋の夕暮れ」で締めくくられています。この3つは、「三夕のうた」と言って有名な歌です。このように、「あきのゆうぐれ」の歌はたくさんあったのですが、「さびしさに」の唄が、その一番初めであると言われているのです。		
16	17	18